

「脳卒中の病態と多面的治療」

誠愛リハビリテーション病院 院長（九州大学 病態機能内科学 特任准教授）

井林 雪郎（いばやしせつろう）

略歴：

1979年 九州大学医学部卒業 第2内科入局（研修医、医員）

1986年 米国ワシントン州立大学医学部脳神経外科留学

1989年 九州大学医学部助手

2002年 九州大学医学部助教授 …… のち准教授に改称

施設名称も九州大学大学院 医学研究院 病態機能内科学に改組さる

2008年 誠愛リハビリテーション病院 院長（同上 特任准教授 兼任）、現在に至る

資格：

医学博士、日本内科学会認定指導医、日本老年医学会認定指導医、日本脳卒中学会専門医／幹事（11年前と昨年と2回、学会事務局長）、日本脳循環代謝会幹事（編集委員長）、米国／欧州／国際脳卒中学会会員など

専門分野：

内科学、とくに生活習慣病に基づく脳卒中の病態・診断・治療ならびにその予防。

最近では関連施設間で福岡脳卒中登録システム（Fukuoka Stroke Registry）を確立し遺伝子多型を含めた脳卒中の臨床研究を後輩たち（研究室メンバー約100名）と共に展開中。

著書：

ファーマナビゲーター「脳卒中編」、井林雪郎（編）、メディカルレビュー社、2006

誠愛リハ病院ホームページ：<http://www.seiai-riha.com/>

脳卒中研究室ホームページ：<http://www.med.kyushu-u.ac.jp/stroke/>

『抄録』

我が国は世界的にも最長寿国として有名ですが、かねてより高血圧患者の数も多く、加えて戦後約 63 年間の生活様式・食文化の欧米化に伴うメタボリックシンドロームの増加も加わり、脳卒中（中でも脳梗塞）は決して少なくなったわけではありません。近年、新しい診断機器／技術／治療薬が次々と開発される中、脳心血管病予防に関する我が国独自の成績も集積されつつあり、脳卒中診療の幅も広がりを見せてきました。

一方で、超高齢化社会の到来や日常生活や節操の乱れ、各種ストレスなどから、脳卒中の純粋な初発（1次）予防はもとより、今後は中高年ハイリスク患者（脳血管病予備軍）をターゲットにした、1.5～2次予防ともいえるべき対策を立てる時代に入ったと思われます。脳血管や脳循環代謝に対して好影響を及ぼす ARB をはじめとする降圧薬や、病態に応じた抗血小板薬を選択することに加え、肥満・糖尿病・脂質異常のほか加齢とともに増加する心房細動などの治療、日常の減塩・禁煙・運動にも最大限の努力を惜しまず、生活習慣病ならびにその予備軍への効果的な改善策に取り組むことこそが、今の日本では医療経済的にみても極めて重要です。厚生労働省もこの4月から、「1に運動、2に食事、しっかり禁煙、最後にクスリ」というキャンペーンを張って、特定健診や保健指導が始まりました。国民一人一人がきちんと自覚して、医療従事者の指導を受けながら「自分の健康は自分で守る時代」に入ったといえましょう。

最近我々は、福岡脳卒中登録（FSR : Fukuoka Stroke Registry）というシステムを考案し、脳梗塞の遺伝子を絡めた脳卒中臨床研究をスタートしたばかりですが、このような脳・心・腎・抹消動脈の動脈硬化や血栓症をできる限り未然に防ぎ、発症したとしてもその時期を極力後倒しにすべく“健康是一”の精神を尊ぶ努力が肝要かと思われまます。

誠愛リハ病院ホームページ : <http://www.seiai-riha.com/>

脳卒中研究室ホームページ : <http://www.med.kyushu-u.ac.jp/stroke/>